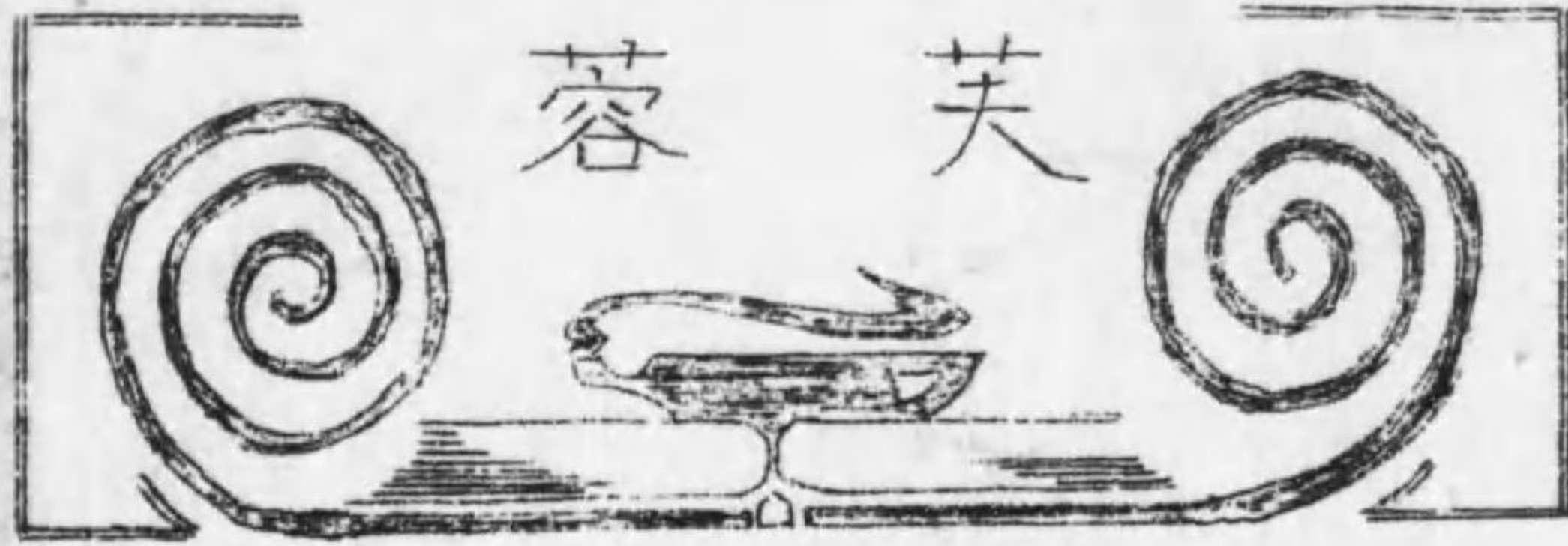




始





葉言の頭卷

世の運は不かり政治は国民の有難し国民魂は青年の政治的訓練が目黒く深き事と云ふ
 日本青年同盟では五月の第百大会に於て因縁會はなつて了合し去年と並進といふ事多し
 且青年同盟にも並進と去年の覚悟は全國統一意見は例がた近頃は青年同盟の
 に於て全進政治論を掲げるとして日本に備へる又高麗新軍では三國上野青年同盟
 を先んずる事を得て居る。

青年の政治的訓練は時代の要求にして又實に公民の資格を成す第一要件である
 故に芙蓉會も新時代に順應して進歩を求め政治的訓練を成すはたしなむ
 斯る意味から進歩の役を會に於て果たすは他字に先して擬議會を成す事は決定した從來の
 健全と趣を異にし今更には興味津々としてあり會を成す所次第あり。

世に政治はいつ位も訓練して是を操縦する者がある我々は今更政治の意義を説く余裕は存が斯る
 者でも故に政治を正當に理解せしむ從來の更替を打破して純正に理想的に之を成す權利を行使す
 が爲めの手置である用より學術研究が眼目であらう地方の懸念は内務省に此意に中心懸
 念有田村の一部を新田と正江津村に合併する件也
 さて又や解散の練度、合法的試行の組織を行ふもがあらう恐らく模範會の備は近き事
 として合意するの勢も同様に進行する事ありあらう。

(一九二〇・三・二五)



寄稿

婦人禮讚

稿

在文責記者



白井敬造

婦人禮讚の題號を見た諸君は心や吾輩を水う濁るや
 美男子と合奏するかも知れないや夫ばかりではない勤
 勞の花の如くを女房と俵に朝鳥の声を起す生活を居
 うと思ふかも知れない希くは左様思つて貰ふたいもので
 婦人禮讚の思想は何時か存在したといふに吾が東方重臣
 には何れにも共通の思想として有夫以前かつ深い根柢を築
 きた故に最近の無學者若くは西洋通譯の言葉で評して居る如く
 各國の遺風を受け始めて婦人の尊貴を悟つた譯かも知れ
 ない唯、戦國の時時に於ては平和を愛好する婦人の思想感
 情が戦局を不利に導いた实例から女子と小人は養ひ難

しだとか女にべき許すなとか女は水たものやあつて男女と云ふ性別
 上から見て決して婦人が全般に劣つて居ると云ふ哲學上の論議
 成り立つて居ない現に新しかりやの無學者が女房虐待を
 だとして引例してある傳教の中では釈迦が熱心に婦人尊敬論を吐
 世の夫共を戒めてある天方禮經(按字)
 一 出入事を敬す可し
 二 飲食を安易にし時々の衣裝に不自由せし可し
 三 金銀珠瑛其他整衣を裝飾を捨し心を悦はしむ可し
 四 財産を合供して終身の安眠を爲さしむ可し
 五 外に於て苦勞事又は邪淫す可からず

日本に於て最も天照大神は女神に渡つて他の神室にも
 女神の立たせ給ふた实例は多し故に戦が重臣及印度の
 東方民族は過去に於て婦人禮讚の民族であつた事は確かであ
 る然るに大正十三年今日に於て併かも海を走つて西洋流の婦人禮
 讚論が持て囃される時代に於て農村婦女を駆つて機械の聲音
 の中身に三層備せしめ工場を抱へる無頼漢の玩具として遊ば
 せしめつて身神を強弱者として僅かなる賃金を利得せしめるエ
 ンガが行はれて居る事は正に男子の面上百斛の唾を吐きかけり
 して居る行であらう
 婦人は労働に駆り可かつて事は何に於てか抑學の如くは本
 位婦人の使命は國民の母たる處にある事として男子を啓蒙し家
 政任務を男子より能く能く大なる責務は實に婦人の手に

俵の中はならぬ此の婦人工場労働に駆り可きは實に男子の意
 地なき結果に外ならずと思ふ將來婦人の労働は事及ぶ母として
 範圍に止るべきなりぬ
 婦人の本来は家庭の光があり人生の花である此の花と花とが其
 美はしさを變へざる限り男子たる労働者の手足は強く品性は高
 く現代國民をよりよく高く育つることは勿論である
 婦人の社会的活動をする者の為には交せられたる廣野は昔樂美新
 教育學術の進歩と云ふ奥ま知る能はざるものがある之を拓きと耕
 して男子の及ばざるもさき與へ男女の乾燥する頭と努力とより得たる
 幸福と交換する事は人生の本義である男子は婦人の工場労働を
 一時滿腔の熱誠を盡して此の矢槍者を買ひ一面自己の力及ばざる
 悲しむ労働に精進し彼等を労働の囚はれより救はねばならぬ

私は斯く見た

喜野美子

美野美子は成る機械紙に恥し思ひに包まれまして申し上

げてみたのです

この二女は女ウツは小中、アチ、

文明の進歩は如何なる農村僻地と雖も一丈潮流と在りて流小の
ニ従ふた人力を以て防せざるべし、ある此の潮流の中は種々及除女子
の合ニルテ居る之等女子により其存其深を以て語リ、女子が社会
的進歩が腐食を止る事あり、ある見、生、小作を勝つて居るは、
向守勝つて居る、使らば血氣にはる青年の熱心を引き、彼等

来れ

叫べ

『我等の天地』

擬村會を賛す

Y. 丁生投

聞く所によくと春の總會に擬村會を成りて居るが、
い、儂し、か、更、い、か、や、ア、見、な、い、と、訛、断、出、来、の、が、第、一、に、擬、問、が、起、る、は、果
して何し解うぬ我らに出来るか、と云ふことだ。

合子ワ固にハコアし、ま、し、者、ウ、多、く、さ、も、う、さ、
吾人青年は、す、べ、く、読、書、に、よ、り、善、心、智、識、の、内、を、修、め、て、
小、と、し、て、世、に、利、便、を、與、へ、し、て、進、歩、し、て、
進、ん、で、建、設、を、以、て、國家、社会、の、發、達、を、期、す、
大、志、を、發、せ、し、ま、す、

併し、法、を、守、り、て、時、は、本、國、兵、の、ア、テ、立、て、
「應、答、」、を、以、て、又、本、國、新、學、社、主、義、上、義、擬、村、會、も、
中、の、大、訂、合、は、新、學、社、の、新、學、社、の、新、學、社、の、
ア、内、閣、を、作、り、し、て、進、歩、し、た、が、
生、の、世、と、は、な、ら、ず、

シ、ア、云、は、字、を、知、る、た、か、ら、小、學、校、へ、入、ら、せ、
以、て、先、進、學、校、へ、行、く、と、云、ふ、が、
及、は、否、か、

並、進、め、ば、小、學、校、へ、入、ら、せ、
果、して、立、派、な、
合、議、會、代、議、士、
行、處、
識、を、
分、野、研、究、
論、を、考、へ、
及、は、否、か、

青年

甲 丁 生 投

社會の時下を簡單に處理すも、其の儘に處理すも

を、英、雄、と、斷、定、す、
了、解、決、に、
封、建、時、代、
の、時、
取、り、
熱、慮、
年、の、
見、上、
の、

前會長訪問記

甲 丁 生 投

擬村會の會に付前會長諸君の御免を蒙り、
君を訪問し、
宮小先生、
青年の時代の覚悟を、
其の出来に、

リ新造の積層を目的としを備してあるが疑い合せは更にその積層を
 積層非出庫してある。
 ○高橋佐手石 宝降産地は小さい方がよい。何れも茶葉の
 品質はよくヤブヤブのものはよくない。
 ○小松昇高石 大には積層非出庫する。良くやよよし。
 ○熊田又二郎石 「町都合内題」積層の辨論は成るに成る
 しかり待てば、どうせ初めの積層はよくない。積層は
 小まらしてよい。
 ○宇佐美能助石 出庫する。積層の差を言論を聞か
 して。
 ○分村定彦石 高小高行石。大橋納貯石。高橋積層石の辨
 論あり。 出庫する。よく。
 ○佐藤万治石 万治産地は出庫した。
 次取は鉄ミリ。雄辨は金。

農事調査
 規定
 農事調査員記事
 農事調査員質問答
 調査員実験投書

○農家副業と養元(前水)
 元々飼養元とて其目的はより種類を選ばずには必ずしも
 次に其の種類を記せば肉用種としては「バタゴニア種」「ロ
 ー種」「ベルゲン」等は良く、毛用種としては「アングラ」「ロ
 「シフベリヤ」後取用として「ホーリ」と「ロップイヤー」等は
 好まれる。而して元々種類は其の純血なるものを得る
 には並運困難なるものがある。吾人もし其の購入を欲せんとす
 農林省畜産試験場(千葉県新市)に就き、今現在並
 け最も便利とす。
 ○施肥の注意
 ●大豆粒 色と目方に注意すること、固方は七角五分角で赤い
 足した方が實りがよい。カビが生じたものは悪い。

△硫黄 色は紫色・白色・灰色等は其の運動性も異なる
 から注意すべし
 △硝酸素 製造月が新らしいものより又熟したるものより
 過量なものは不可なり。牛に投入引付はえ、積
 層の位から製造月が保証書を見ることがあり。
 △硝酸素も多量に投入する。コップの中の水を飲まぬ。口中
 に入らぬ。吐く。口を閉。
 △硝酸素不可
 △下肥又は硫黄に石灰、灰、石灰、素
 △過燐酸石灰に石灰、灰、石灰、素
 △混合可能
 △過燐酸石灰に下肥、硫黄
 △大豆粒に下肥
 △堆肥に大豆粒、米糠下肥、過燐酸石灰
 △肥料相場
 本府農会より指示価格

大豆粒	一枚	二五二角
過燐酸石灰	十貫	二二二
堆肥	全	加一五
内七硫黄	全	七一五
灰	全	〇五八
石灰	全	〇三一
硫酸加量	一%	〇二二
油粕	十貫	二九〇
燐酸石灰	全	四六〇





○電行列車ア太陽まで。
地球の中心は二万二千里あり、一時間二十十里走る。電行列車は夜も休まず走りつづける。多岐路より出ます。
此の列、7月迄五ヶ月、太陽まで七十五日と三ヶ月も汽車より早く、こゝから小舟に上ると。

○会員誌大余閱催

芙蓉会報誌局の藤野を放送致します。第一回の催し、7月河に上るの誌局も多からう。期をみ7月号迄発表致します。ついで下らん。
サアー、ー、ー、

彙報

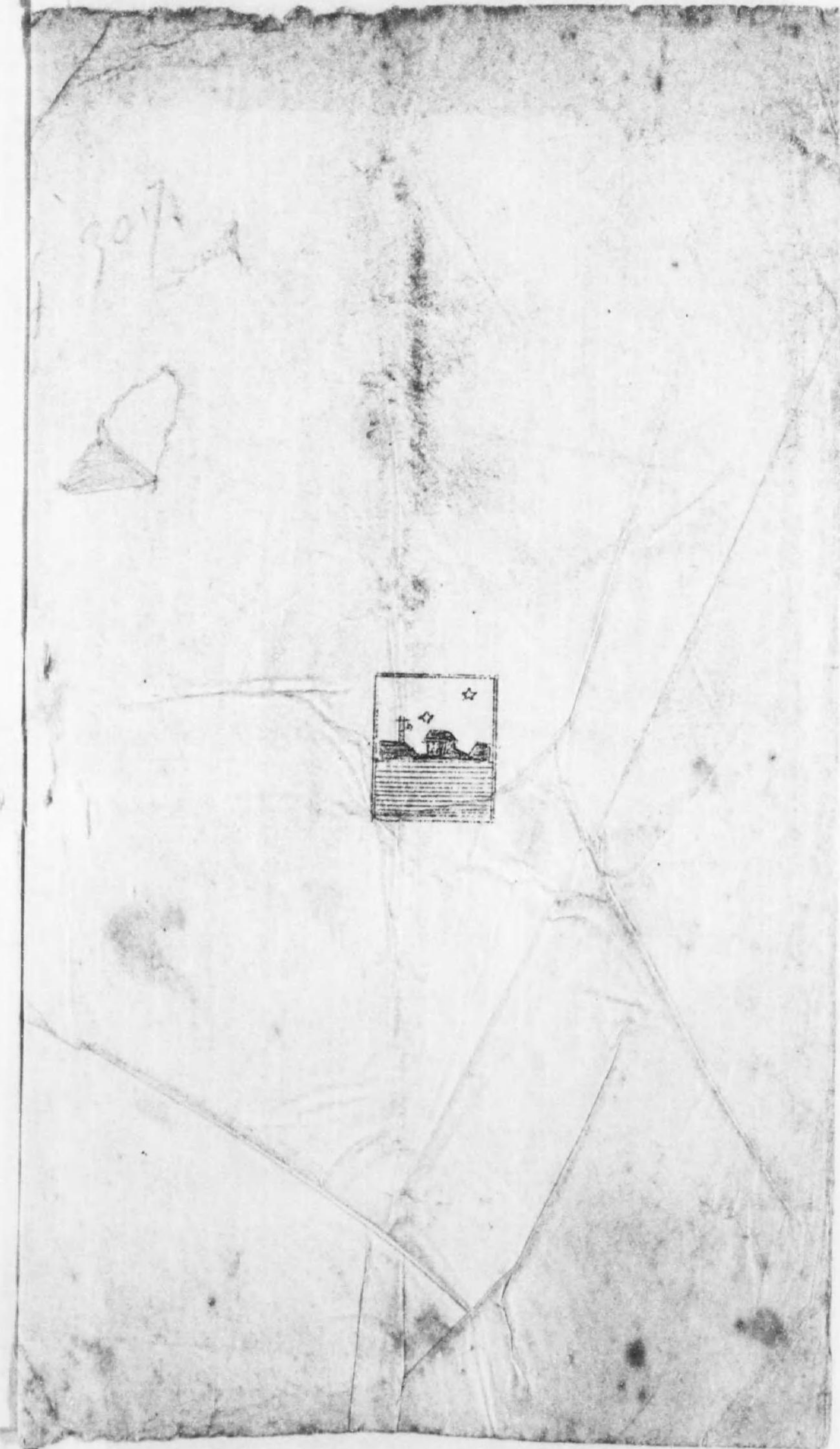
○軍人分會復登會
三月二十日午後一時より本村役場の於て分會復登會の開催。付に付議議して會政會了。
一、分會復登會の開催。付。
二、分會復登會の開催。付。
三、分會復登會の開催。付。
○母青年團長
三月廿九日民選

○母青年團長
三月廿九日民選
三月廿九日民選
三月廿九日民選

大原 行	千原 山	司	道中節	源入 田
大原 廣	桐原 山	司	道中節	源津 小
小結	池田	司	手島	川浦 吉
前野	福橋 示	司	大食	高橋
三津節	京田 福	司	琵琶	高橋
大原 藤	橋本 示	司	藤野 吉	若山
小結	福橋 示	司	大原 吉	高橋
前野	福橋 示	司	大原 吉	高橋
司	福橋 示	司	大原 吉	高橋
司	福橋 示	司	大原 吉	高橋

全長 佐一磨子一氏 副全長 田中正名・洲崎
委員 佐一磨子一氏 副委員 田中正名・洲崎
協理 田中正名・洲崎

一、第一屆青年團長大會の開催。
二、第二屆青年團長大會の開催。
三、第三屆青年團長大會の開催。
四、第四屆青年團長大會の開催。
五、第五屆青年團長大會の開催。
六、第六屆青年團長大會の開催。
七、第七屆青年團長大會の開催。
八、第八屆青年團長大會の開催。
九、第九屆青年團長大會の開催。
○田中正名・洲崎の英霊を祀る。
村軍人分會連絡會
村軍人分會は三月十日午前六時より、半宿野寺に於て、清田露田に於て、戦死者追悼會を開催す。



907



終